

Kandai Style

2023.6 Vol.508
関西大学通信



今こそ留学

海外へ飛び出そう



海外へ飛び出そう

今こそ留学

コロナ禍で日本人学生の留学者数は大きく落ち込みましたが、日常生活が戻りつつある今、留学を考えている学生が増えてきているのではないのでしょうか。

今月号の特集は「今こそ留学—海外へ飛び出そう」をテーマに、留学経験者と留学予定者にインタビューしました。留学したいけれど何から始めたら良いのか分からない、自分に合うプログラムをどう探せば良いのかなどの疑問は、国際部に行けば留学カウンセラーや学生留学アドバイザー「SAPA」が丁寧に教えてくれますので、この誌面と共に活用ください。

国際部からのアドバイス

新型コロナウイルスによる規制も緩和されつつある今、「留学に行ってみよう!」と思っている方も、中には留学に対して不安を抱いている方もいると思います。国際部にはそんな皆さんの留学に対する不安や疑問に寄り添い、解消する体制が整っています。このインタビューに登場する留学経験者たちも出発前は不安を抱えながらも、皆かけがえのない素晴らしい経験を積んで帰ってきているように、挑戦の先にはきっと留学でしか得られない貴重な経験が待っているはず。留学で得られるのは語学力だけでなく、むしろ精神力や異文化適応能力といった役立つものとなるでしょう。学生の皆さんの今後にきっと役立つものがある学生は、ぜひ国際部の留学相談にお越しください。何から始めたら良いのか分からない、どんなプログラムがあるのか分からない、そんな漠然とした質問・相談でも大歓迎です! 学生時代という人生において貴重な自由な時間を、留学で彩って全面的にサポートします。

経済学部3年次生
後藤 大葵 さん

アメリカ・ミズーリ大学セントルイス校へ
6カ月間留学





自分を変える留学体験

語学力の向上と外国の文化を肌で感じる事が留学の目的だった私にとって、今回の留学は予想以上の成果を与えてくれました。初めての海外で緊張しながらアメリカに行きましたが、少し慣れてくると授業のない日には旅行を楽しむことができました。旅行に行った時、航空券を格安チケットで購入したのを忘れて手荷物が重量オーバーになり、気に入った服を手放すピンチに陥ったことがありましたが、その服を着ることで、その場を乗り切ることができました。このような失敗をいくつも経験したからこそ思い出深い留学になったような気がします。これから留学を考えている皆さんには、一歩を踏み出す勇気を持って何事に

もチャレンジしてほしいと思います。私は留学をサポートする国際部学生スタッフ「DIASS」として活動していますが、学生留学アドバイザー「SAPA」という留学の相談に乗るスタッフもいます。私も今回の経験を生かして、皆さんをサポートしていきたいと思いますので、気軽に国際部を訪れて留学情報を入手してください。



帰国前のお別れパーティー (2列目中央が後藤さん)

経済学部4年次生
雪本 あきか さん

韓国・建国大学へ
1年間留学





隣国・韓国をもっと知りたい

「韓国に行って良かった」、これが留学を終えた私の率直な感想です。私が留学したのは2022年3月でしたが、当時はコロナ禍で授業もオンライン。授業中の先生の話す内容が理解できずに悩んでいましたが、助けてくれたのは留学先である建国大学の学生です。留学生一人ずつに対して親切にサポートしてもらったおかげで現地の友人を作ることができ、その友人とは日本のアニメや日本料理についてよく話をしました。また、大学近くにあるキンパ(海苔巻き料理)のお店に行けば、「日本はきれいな国ですね」と話しかけられるなど日本を好きな方が多いことに気が付きました。

留学前の私は英語を勉強するなら欧米の大学と思い込んでいましたが、これから留学を考えている方には留学先の選択肢にアジアも含めてほしいと思います。特に韓国は人の温かさと共に、世界各国からの多くの留学生が訪れますので、語学を勉強するには抜群の環境です。アジアには日本人留学生が少ないのでじっくり勉強できますよ。

留学先でのカウントダウン (後列中央が雪本さん)



商学部4年次生
池之上 裕次郎 さん

ドイツ・ギーゼン大学へ
1年間留学





ドイツでつかんだ自信

高校時代に留学する予定が部活動のけがで断念したことがあり、大学生になったら絶対に留学しようと思っていました。今回、その夢が実現。自分の英語力を試し、そして国際交流を通じて視野を広げたいという希望がかないました。留学先は、東西の文化が混在しているドイツです。最初の1カ月は授業に付いていくのに苦労しましたが、慣れてくると留学生ボランティア団体に入って週末のイベントに参加しました。10月にギーゼン大学とフランクフルト大学の留学生約100人に対して日本文化を紹介するイベントがあり、急きょリーダーとなって少々慌てましたが、日本のアニメ、食べ物、伝統行事をはじめ、四季を愛


でる心、日本人の哲学などを紹介することができ、大変喜んでもらいました。このような経験を通じて、人間関係が幅広くなり、コミュニケーションもうまく取れるようになったと感じています。現在、留学を考えている方は、今悩むのではなく、現地に行つて悩んでほしいと思います。何事も諦めないことが大事です。



日本の文化を紹介するイベントの様子

経済学部3年次生
武田 七海 さん

アメリカ・カリフォルニア州立大学ベーカーズフィールド校へ
6カ月間留学予定





世界中に友人を作りたい

留学を考えている皆さんは、留学先の授業に付いていけるのか、現地の方の話が聞き取れるのか、といった不安を抱えていると思いますが、現地に行けば多くのことを考え過ぎずに何でもやってみることが大事だと思っています。私は中学生の時は英語が苦手でした。しかし高校2年生の時にアメリカに留学したことで、英語を使って勉強することが楽しくなってきました。その後も自宅を留学生のホームステイ先にしたり、アルバイト先で外国人の方とおしゃべりしながら、英語と触れ合う機会を増やしていきました。今では英語の発音に興味があって、YouTubeやNetflixで洋画を見ながら勉強を続けています。

今回はアメリカの行動経済学を学びたくて、もう一度アメリカ西海岸の大学に留学に行きますが、他の国から来ている留学生や現地の人と仲良くなり、日本人の考え方の違いや文化の違いを肌で感じたいと思っています。そのためにも、もう少し英語を話す力、聞く力を伸ばしたいと考えています。



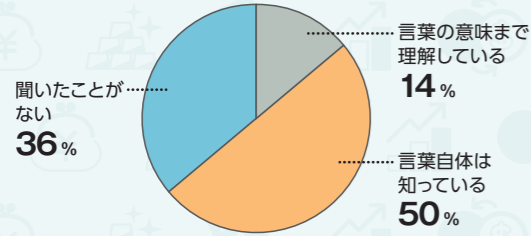
留学前に予習する武田さん

金融リテラシーを身に付けよう

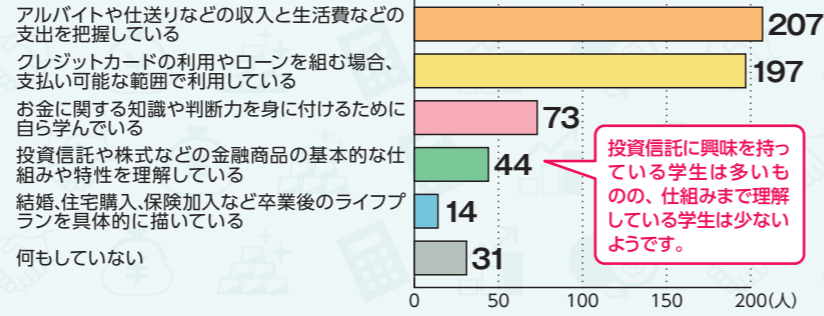
私たちは毎日、「モノやサービスを買う」「給料や代金を受け取る」または「お金を借りる」「資産を運用する」など、さまざまな形でお金と関わって暮らしています。世界的なインフレの波が日本にも押し寄せ、物価の上昇などで皆さんの生活にも影響が出ている今、「金融リテラシー」を高めることは必要不可欠です。
今月号では、大学生の皆さんが学生時代に身に付けておきたい金融リテラシーについて解説します。

アンケート期間：2023年3月9日～22日 対象者：学生 回答者数：290人

Q1 「金融リテラシー」という言葉を知っていますか？



Q2 今のあなたの状況に当てはまるものを全てチェックしてください。



最低限身に付けるべき

金融リテラシー

1 家計管理

- 赤字解消や黒字確保などの適切な収支管理の習慣化



2 生活設計

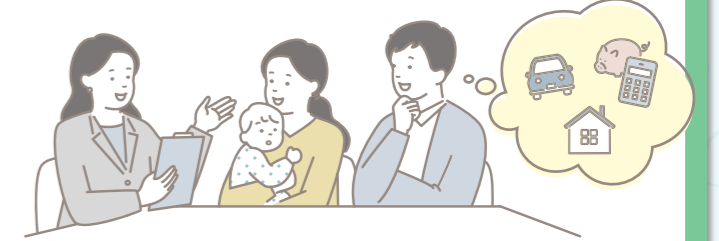
- ライフプランの明確化
- 資金確保の必要性の理解



3 金融知識および金融経済事情の理解と適切な金融商品の利用選択

金融取引の基本としての素養

- 契約にかかる基本的な姿勢の習慣化
- 情報の入手先や契約相手が信頼できるものであるかどうかの確認の習慣化
- インターネット取引は対面取引とは異なる注意点があることへの理解



金融分野共通

- 金融経済教育において基礎となる重要な事項や金融経済情勢に応じた金融商品の利用選択についての理解
- 取引の実質的なコストについて把握することの重要性の理解

保険商品

- 死亡・疾病・火災など、自分が保険でカバーすべき事象が何かの理解
- カバーすべき事象発現時の経済的保障の必要額の理解



ローン・クレジット

- 住宅ローンを組む際の留意点の理解
- 無計画・無謀なクレジットカードの利用を行わないことの習慣化



金融庁から引用

資産形成商品

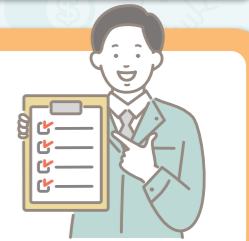
- ハイリスク・ハイリターンへの理解
- 運用資産や投資時期の分散効果の理解
- 資産形成における長期運用の効果の理解



金融庁 NISA 推進・連絡協議会から引用

4 外部の知見の適切な活用

- 外部の知見を適切に活用する必要性の理解



金融広報中央委員会「知るぽると」から引用



PROFESSOR'S COMMENTS

商学部 高屋 定美教授

大学生の金融リテラシーとは、日常生活や将来の支出のために必要な、お金に関する知識を正しく理解し、適切に判断できる能力を指します。18歳から成人となり、経済的な契約がで

きるようになった大学生の皆さんには、日常生活だけでなく将来の人生設計に必要なお金の知識を今のうちに学ぶことが大切です。また、さまざまな契約の誘いを適切に判断するためにも、金融リテラシーを身に付けておくことが必要です。

具体的には、1)自分の収入と支出を知り、収支を適切に管理する方法、2)金融機関の提供する預金やローン、クレジットカードの利用の仕方、3)株式や保険商品などの金融商品の

知識と、それらの利用の仕方、4)税や社会保障制度などの内容を理解してもらいたいです。

今回のアンケートにもあるように、金融リテラシーという言葉を知っている学生の皆さんは多いですが、その中身までは十分には知らないようです。人生設計においてどのような出費があり、そのためにどのように資金計画を立てるのが適切なのかの判断力を身に付けてください。

次回のテーマは…「熱中症対策をしていますか」

熱中症による健康被害報告が多く聞かれる季節となりましたが、学生の皆さんは熱中症に対してどのような対策を取っているのでしょうか。7月号では、熱中症にならないよう、誰でもできる対策や一人暮らしの注意点、緊急時の応急処置などを紹介します。

金融商品仲介業 / 独立系金融コンサルタント

株式会社ファーストパートナーズ

荻野 真志さん

三田学園高等学校出身
2016年経済学部卒業

チャレンジする姿が信頼に 成長できる環境で突き進みます

株式会社ファーストパートナーズに所属する荻野真志さんは、独立系金融アドバイザー (IFA) に従事しています。証券会社や銀行などの金融機関から独立し、中立的な立場で顧客に寄り添って金融商品のアドバイスを行う、近年注目されている業態です。就職活動では金融業界を志望し、銀行、証券会社、生命保険会社など6社に内定。営業力や人脈、金融や経済の知識を得られると感じた荻野さんは「成長できる環境に身を置きたかった」と、最も厳しいと言われる大手証券会社へ入社を決めました。

配属された新宿の支店では、日本を代表する企業が立ち並ぶマーケットで法人営業を経験します。朝4時に起床し新聞を読み込み、昼は100件の飛び込み営業、夜は筆書きで手紙を何枚も書く日々を過ごします。3年間の実績が実り、4年目には金融資産10億円以上の超富裕層を担当するPB部門への異動となります。担当するお客様が一切いない状態からの再スタートになりますが、新規開拓に成功し、再び社長賞を獲得。その後2021年にIFAに転身し、ファーストパートナーズに所属します。同社は2016年設立の新しい会社で、優秀なIFAが多く在籍し、それぞれの得意分野で協力し合えること、裁量の自由度が大きいことなどが魅力であると語ります。

一方、転身後には以前からの顧客の離脱や、社内インフラ不足に苦心することがあるそうで、大手企業環境が恵まれていたことに気付くとともに、「己の力が本当の意味で試される今の環境は自分に合っている」と意欲を見せます。

学生時代は体育会バスケットボール部に所属。レギュラー争いに苦しみながらも、チーム内のフォローに注力し、5年ぶりとなるインカレ出場を成し遂げました。部活動で培った根性とレギュラーの活躍を支えた経験は、人を盛り立て支えるという点で現在の仕事にも生きていくと言います。

「チャレンジを続ける荻野を応援したい、と挑戦する姿勢に信頼を寄せてくださるお客さまが多い」という荻野さん。最後に「失敗も経験にできるのが、大学4年間の素晴らしさです。起業でも資産運用でも、失敗を恐れず突き進んでみてください」とエールを送りました。

ある1日の
スケジュール

- 8:00 出勤・マーケットの情報収集
- 10:00 顧客面談
- 12:00 顧客とランチ会食
- 14:00 顧客面談
- 16:00 オンラインミーティング
(社内、社外)
- 18:00 退社後、会食に参加

※メールや証券売買などの発注
依頼は合間に処理
※自己裁量が大きく、日によって
大幅に異なる



必須アイテムは、アタッシュケース、タブレット端末、スマートフォン、靴。身だしなみには特に気を付けています。お客さまによって靴やかばん、スーツまで替えることもあります。



Independent Financial Adviser

VIVA!!

学び易



経済学部 経済学科

「経済学演習4」

石井 光 教授

ミクロ経済学の理論を応用し、未来の意思決定を行う

目の前にある現象だけでなく、その背景と隠れた要因を見抜く

石井光教授の「経済学演習4」で学ぶのは産業組織論。普段私たちが行う個人消費や企業の行動、意思決定がどのようにされるかを学びます。まず、専門書を輪読して研究に必要な経済学の知識を身に付け、その後、4～5人のグループに分かれて研究に取り組み、プレゼンテーションやディスカッションのスキルの習得を目指します。

「経済学は過去の現象の分析だけでなく、未来の現象に対する意思決定の方法も提供する学問なので、常に『今起きていること』に着目することが大切です」と石井教授は語ります。授業で取り扱う経済現象のテーマは、身近なテーマから学生が主体的に選ばれます。例えば、飲食店の割引クーポン。一見お得なサービスに見えますが、実は競合他社との競争を制限する効果があり、クーポンを発行しない場合よりも実質価格が高くなり、顧客にとってはお得どころか損になる可能性もあることが研究で明らかになりました。

「研究に必要なことは、企業の行動が生む利益だけでなく、顧客への影響や世間へのインパクトまで広く考える力です」と石井教授。授業では、背景にある要因を探り仮説を立て、理論またはデータを用いて分析を行い立証します。思うような結果が出ない場合には、改めて仮説を立てて再度分析を行います。そのようにして得た研究成果は、学内の経商合同ゼミナール大会や、他大学とのインターゼミナール大会で発表し、学生同士で研究成果について議論を行います。

「学生には、たとえ小さな成果でも、導き出すには膨大な時間と努力が必要だと気付いてほしい」と教授は言います。自らの考えを人に伝える難しさ、議論によってその考えを確立させていくすべを身に付ければ、社会に出てから必ず役立つはずです。

「日常の中からテーマを見つけることは、簡単そうに見えます。しかしその現象の背景で何が起ころうとしているのか、何が原因で起きているのかを探ることは非常に難しいことです。そこに興味を持って粘り強く取り組み、解明しようという意欲のある学生に来てほしい」と締めくくりました。



山本菜々美さん(4年次生)

1年次生で受講した石井先生の授業がとても面白く、このゼミを選びました。自分が買う商品がどのような意図や戦略で販売されているのか、経済システムの裏側を学べるのがミクロ経済学の魅力です。ゼミではチームでの研究が主体となるため、全員がとても仲が良く、先生も気さくで相談しやすい関係です。卒業後はIT業界でSEとして働きたいと思っていますが、ゼミで培った論理的思考力は大きな力になると考えています。



林広晃さん(4年次生)

以前から企業間行動に興味があり、戦略的行動に着目する石井ゼミを選びました。チームで『スターバックスの値上げに関する戦略効果』について研究し、さまざまな大会でプレゼンテーションしました。チームで意見が分かれた時は、客観的に見ることと説得力のある伝え方を意識し、チームワークを大切にしました。将来はパイロットを目指していますが、ゼミで習得したコミュニケーション力を生かして活躍したいと思っています。

6月に第46回総合関関戦を開催

総合関関戦は今年も6月に予定されています。関西大学と関西学院大学の体育会各クラブによる対抗戦で、両大学のスポーツ技術の交流と親睦を兼ねた、全国でも珍しい大学スポーツの祭典です。

今月号では、これまでの歴史を振り返ります。

伝統のスポーツ交流と地域の絆

総合関関戦が始まったのは1978年。当時、多くの大学において、体育会の各クラブが個別に交流戦を行っていましたが、縁の深い大学間でクラブごとに対戦し、その総合成績を競い合う例はありませんでした。それを両大学の体育OB会(現在の体育OB・OG会)が企画し、双方のトップの賛同を得て実現。初めての大学スポーツの総合定期戦ということで、全国的にも注目されました。

当時の学長、院長はこの総合関関戦に期待して、それぞれの思いを語っています。『関西大学百年史』からそれを拾うと一。

◎ 関西大学 中義勝学長

ライバル意識の強い両大学の学生諸君がぶつかり合うことによって、母校愛が養われれば言うことはない。学風の振興に役立つのではないか。

◎ 関西学院大学 小寺武四郎院長

親善も大切だが、鍛錬する心も大事である。この定期戦こそ新しい時代における学生スポーツの開拓になると思っている。

本大会の特徴は、大学単独の企画ではないこと。その典型は1980年の第3回大会から始まった健康マラソン大会です。関大周辺に6kmコースと4kmコースを設け、一般市民も参加できるようにしたのです。

ちょうどこの頃はジョギングブームに火が付いた時代で、市民マラソンと名の付く大会が全国で100近く企画されました。本大会の健康マラソンにも3歳から78歳までの924人

健康マラソン大会▶
第3回大会で初めて行われた健康マラソン大会では道を埋め尽くすほどの参加者がありました。(現在の千里山キャンパス凛風館と誠之館の間)



▲第1回大会の開会式(現在の千里山キャンパス尚文館あたり)

が参加し、大きな盛り上がりを見せました。

これまでの通算成績は本学の18勝23敗1分です。毎回多くの感動の渦を巻き起こし、数々のドラマを生んできました。そして今でもその手応えを忘れない人たちがいます。

例えば、野球部の北川元洋さん(1983年社会学部卒業)。1982年の第5回大会で、8番バッターとして出場。9回2死2、3塁のチャンスで中前安打を打ちサヨナラ勝ち。「打った時の腕の感触は今でも覚えています」と言います。

こうした手応えは関関戦に限ったことではありません。本学の体育会には44のクラブがあり、それぞれが関関戦以外に関関同立の交流試合や関西、関東の大学との交流を行っています。一人一人が他大学との絆を強めています。さあ、今度はあなたの番です。

第46回大会概要

日程：2023年6月3日(土)~11日(日)

場所：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス他

スローガン：
そうきゅう
蒼穹



第46回大会実行委員長の岡本昂也さん(総合情報学部3年次生)は、「『蒼穹』には2つの願いを込めています。1つ目は総合関関戦の意思や伝統を引き継ぎ、次の世代にバトンをつないでいきたいこと。2つ目は関大の2連覇を目指して『蒼穹』のように曇りのない最高の大会にしていきたいことです」と話しました。



環境都市工学部 2年次生

中川 雄策 さん

ゴルフの魅力は生涯続けられること
練習とキャディーの経験を成長につなげる

体育会ゴルフ部に所属する中川雄策さんは、大学進学が決まった高校3年生の時、父から「社会人になるとゴルフをする人が多いから、将来役に立つよ」と勧められたことが入部のきっかけでした。

ゴルフ部は週3回、千里山キャンパスから徒歩約20分のゴルフ練習場で、19時から21時まで練習を行っています。入部したての頃、中川さんはルールも知らない初心者でしたが、「練習するうちに上達を実感できて、ゴルフが面白くなりました」と当時を振り返ります。

また、ゴルフ部ではコースでの振る舞いを学ぶため、ホームコースである有馬ロイヤルゴルフクラブでキャディー研修を推奨。中川さんも週末にはゴルフ場でキャディーの経験を積んでいます。さまざまな年代の人に同行する中で、70歳を超えた方が打つショットの正確さに感嘆することもあり、「年齢を重ねても続けられる“生涯スポーツ”であることがゴルフの大きな魅力」と語ります。

将来はランドマークとなるような大型の建築物を手掛け「お父さんが建てたんだよ、と自分が施工に携わった建物を子どもに見せることが夢」と話してくれました。時間に制限がある中でもスケジュールをうまく調整して、学業と部活動の両方に力を入れています。「学業面では、在学中に『宅地建物取引士』の資格を取ることに。部活動では、4月から入ってきた後輩を引っ張っていけるよう、アイアンショットの正確性を身に付け、ゆくゆくはアベレージスコアを80にすることが目標です」と意気込みを見せます。

「在学中は学業と共に、ゴルフを通して精神力を鍛えたい。その経験は社会に出てからも生かせるはずですよ」と中川さん。最後に「6月に総合関関戦が迫っています。去年は16年ぶりに勝利しましたが、今年の試合はアウェーコースで行われるので苦戦が予想されます。自分はキャディーとしてチームを支えますので、皆さん応援をよろしくお願いします」と笑顔で語りました。



春合宿でのスイング練習の様子

今回は、中川さんからのご紹介で眞壁知義さん(文学部2年次生)が登場。
お楽しみに!



Yusaku Nakagawa

学部・研究科・併設校トピックス

法学部／法学研究科

教科書の読み方

法学の学習では、教科書を読むことが重要です。特に実定法分野の教科書は、抽象的な規範や技術的な制度を扱いますので、初学者にはとつきにくい。私は学生の頃、「教科書は3回読め」と言われました。その意味は、1回目は分からなくても良いからざっと読んで全体を把握し、2回目は行ったり来たり立ち止まりながら丁寧に読んで子細を確認し、3回目は点と点を線でつなぎながらざっと読んで当該分野の体系を理解せよということです。梅雨の季節に、教科書を読んでみてはいかがでしょうか。

(教学主任 福島豪教授)

文学部／文学研究科 東アジア文化研究科

6月の覇者

新年度、心がふわふわ4月。新緑連休、心がわくわく5月。雨・祝日ゼロ、心がどんより6月。そうです。6月はカレンダーの中で最も厳しい月です。しかし、逆に言えば、6月は学業に最も集中できる月です。

新入学の大学院生にとって6月は研究の土台作りにも最適です。梅雨空のもと、基礎的な文献を時間をかけてじっくり読み込むなどし、この時期に地力を養い、飛躍の夏に備えましょう。梅雨を浴びて田んぼの稲がぐんと成長するように。6月を制するものは研究を制す。ちょっと言い過ぎでしょうか。

(教学主任 酒井真道教授)

経済学部／経済学研究科

専門書を読む

ビジネス書や自己啓発本を通じた読書は、難しい専門書の内容を端的に要約しているという意味で、昨今流行りのタイパを体現していると言えます。しかし、端的な要約の背後には、当然ながら捨象されている内容もあり、そこにこそ真理が潜んでいることもあります。難しい専門書の理解には相当の訓練が求められますが、その訓練に要する時間を確保できるのは、学生の特権と言えます。手軽に多くの知識を得ることも重要ですが、じっくりと専門書に向き合うのも良いのではないでしょうか。

(教学主任 西川浩平准教授)

各学部・研究科・併設校のさまざまな活動や取り組みなど、トピックスや皆さんへのメッセージをお届けします。

商学部／商学研究科

GRプログラムの海外研修の実施

商学研究科のグローバル・リテリング・プログラムでは、2022年11月に韓国で「海外研修」を実施しました。アジア新流通の発展・進化を理論と実務の両面から学ぶ本プログラムは、2年前に産声を上げました。ただしコロナ禍ゆえ、初年度には目玉イベントとして設定した海外研修を実施できなかったため、今回はデジタル小売革命で沸いている韓国での開催に踏み切りました。なお2023年度から、本プログラムの海外研修を、アジアの流通変革を肌で感じたい商学部生が履修可能な科目としてオープンします。

(崔根鐵教授)

社会学部／社会学研究科

「当たり前」を問い直す

皆さんは、大学を卒業したら、良い仕事に就かなくてはならない、そのためには在学中に就職でアピールできる活動をしなければならない、と漠然と考え、悩み、時には達成感を得るのではないのでしょうか。

社会学部では、身の回りのさまざまな「当たり前」がどのようなもので、なぜ存在するのかを考え直します。私たちの命の体験(=生きること)を形作る「当たり前」の範囲を広げて、人間としての可能性を広げていきましょう。

(教学主任 永富真梨准教授)

政策創造学部／ガバナンス研究科

新入生研修・交流会2023

政策創造学部では毎年4月に、新入生合宿を実施しています。これは、新入生の交流を図り、大学生生活に前向きに進んでいけるようになることを目的に、先輩にあたる祭典実行委員会の皆さんが工夫を凝らして企画立案して実施されるイベントです。今年度はいつものキャンパスとは違う空間(高槻キャンパス高岳館)で、日帰り研修を実施し、少し長い時間を同級生や先輩と一緒に過ごすことで、お互いに知り合い、大学で共に学ぶことへのモチベーションを高めることができたのではないかと期待しています。

(学生主任 徳丸宜穂教授)

外国語学部／外国語教育学研究科

Pronunciation? Check it Online!

英語で発表をする時は、事前に単語の発音を確認することを忘れないようにしましょう。やり方は簡単です。「調べたい単語+pronunciation」でインターネット検索をします。例えば「seat pronunciation」と入力し、検索すると、「seat」の発音を表す“seat”という表記と、スピーカーの絵が表示されます。スピーカーの絵をクリックすると音声で聞くことができ、口の動きも画像で見ることが出来ます。第二言語でプレゼンテーションをする際は、ぜひご自身の発音をチェックしてください。

(アラン・ハント教授)

人間健康学部／人間健康研究科

実践と失敗

人間健康研究科では「健康調査研究法2」を新たに開講しました。この科目では定量的分析方法について教室で学習するのみではなく、フィールドワークとして実際に自分たちが立案した調査票を用いて調査をしてみます。経験不足のうち、設問や回答方法に対して「こうしておけばもっと明確な回答が得られ、分析しやすかったのに…」と感じることも多いでしょう。しかし、その失敗体験が大きな学びにつながります。研究とは失敗と試行錯誤を繰り返すことなのでから。

(教学主任 谷所慶教授)

総合情報学部／総合情報学研究科

新入生歓迎行事を実施しました

2019年以来、4年ぶりに新入生歓迎行事を行いました。亀松太郎特任教授による講演、生協食堂での昼食に続き、アイスアリーナに移動して、新入生歓迎演舞、応援団による学歌指導、フィギュアスケートやアイスホッケーのエキシビジョンというプログラムで、新たな総情メンバーをお迎えしました。この他にも、コロナ禍で制限されていた対面でのサークル勧誘活動や、総合情報学部にある貴重な機材の展示イベントなど、盛りだくさん歓迎行事となりました。

(学部長 名取良太教授)

社会安全学部／社会安全研究科

6/18は高槻ミュージアムに来ませんか

社会安全学部では、6月18日(日)にグリーンキャンパスを実施します。さらに、コロナ禍では実施を見送っていた、高槻ミュージアムキャンパス祭も同日に開催予定です。地域にキャンパスを開放してさまざまなイベントを開催してきたため、これまで、数多くの地域住民や学生に訪れていただきました。他学部の皆さんも、社会安全学部/サテライトキャンパスだからこそ実施できるイベントを体験しに、一度、高槻ミュージアムキャンパスに来てみませんか?

(河野和宏准教授)

法科大学院

無料法律相談を2023年度も実施

法科大学院では、2004年の創設時より社会貢献につながる授業の一環として、市民の皆さまを対象に、無料法律相談を実施しています。2022年度は従来の対面形式での実施に加え、オンライン形式での相談も受け付け、1年間で19件の相談がありました。

本法律相談では、弁護士資格を有する実務家教員と、守秘義務を課された法科大学院生が協働し、法律に基づき問題解決に向けての具体的助言を行うことで、市民に寄り添うことができる実務感覚に優れた法律家の養成を目指しています。

(大住洋教授)



関西大学初等部

笑顔はじける新1年生が入学

4月7日、第14回入学式を挙行し、64名の新1年生が誕生しました。コロナ禍でのさまざまな制限も解け始めた今年、マスクの無い、子どもたちの素の笑顔が溢れる入学式になりました。また、中高等部吹奏楽部の生演奏での入場行進も復活し、温かい雰囲気にも包まれたスタートになりました。

(教頭 田淵良二教諭)



システム理工学部・環境都市工学部・化学生命工学部／理工学研究科

行ってみよう、やってみよう

新年度が始まって2カ月、キャンパスでの勉強にも慣れてきた頃と思います。コロナ禍の3年間、何かと行動が制限される一方、デジタルアーカイブの充実やWEBを介したコミュニケーションツールの普及が見られ、リアルなら参加できないシンポジウムに出たり、オンデマンド授業では分からない部分を何度も再生することができたり、振り返れば悪いことばかりではなかったと思えます。WEB上の膨大な精密なデータは、探求の可能性を広げてくれます。例えばGoogle street viewを使えば街歩きしているような気分

になります。でも、気温や湿度、光の強弱、匂いなど、画像では分からないことも多くあり、行った気になるのは早いでしょう。授業でもシンポジウムでも、WEBと対面の違いは、皆が一室に会しているかどうかです。得られる知識はそう変わりませんが、自分と違う考え方をする人がいたり、予期せぬ出会いがあったり、他者と共に学ぶことがリアルな場の良さと思えます。

学生らしく過ごせる期間は意外と短く、特に理工系は授業がぎっしりで余裕がありませんが、夏休みや春休みを含めれば自由な時間はかなりあ

ります。今のうちに、どこか実際に行ってみる、何か身体を動かしてやってみることをお勧めします。旅も良いですが、キャンパスでもさまざまな催しがありますし、実験・演習など授業に関連した体験もあるでしょう。コンクールへの応募や、研究成果を発表するというのも貴重な経験です。リアルな体験には時間と手間がかかりますが、面倒と思わず、トライしてみてください。1回で成功するとは限りません。でも失敗しても、次はもう少しうまくいくはずですよ。

(環境都市工学部 橋寺知子准教授)

教育推進部

レポートの書き方に困ったら…!

ライティングラボでは、大学院生チューターがレポートやスライド資料等に関する相談に応じています。「何を書けば良いのか分からない」「書いたけどこれで良いのか誰かに見てほしい」というあなた、気軽にライティングラボをご活用ください。年間利用者1300人強!満足度は約99%!



(岩崎千晶教授)

Attention 大学からの重要なお知らせ

3大学共催で「データサイエンス・アイデアコンテスト(協賛 マイナビ)」を開催

本学と中央大学、法政大学の3大学は、数理・データサイエンス・AIの知識・技術を用いたデータの利活用を実践する場として、「データサイエンス・アイデアコンテスト」を開催します。

応募資格	3大学に在籍中の学部生および併設校に在籍中の高校生	応募テーマ	社会課題「労働力人口の減少」について、データに基づくアイデアを募集します。
スケジュール	8月25日(金) エントリーシート提出締切 10月29日(日) 最終選考会(法政大学 市ヶ谷キャンパス) 旅費の一部(往復新幹線代相当)を補助	表彰	最優秀賞 賞金10万円
		詳細は、応募要項をご覧ください	



関大トピックス

『新入生に贈る100冊』(2023年度版)を発表

『新入生に贈る100冊』は、「若者の読書離れに歯止めをかけた」という思いから始まった、今年で6年目を迎える本学独自の読書啓発企画です。2023年度も大手書店「丸善雄松堂」ならびに「紀伊國屋書店」と本学学長が「新入生に読んでもらいたい100冊」を選定しました。

選定された100冊のうち約8割はいつでもアクセスできる電子書籍として提供しています。電子書籍の取り扱いがない図書も、各キャンパス図書館での閲覧・貸出が可能です。



電子版
『新入生に贈る100冊』
(2023年度版)



『関西大学新入生歓迎の集い2023』を開催

千里山キャンパスで4月2日、一人暮らしを始める新入生を対象に、新生活のスタートおよび学生同士の交流をサポートするイベント「関西大学新入生歓迎の集い2023」を開催しました。

本イベントは、一人暮らしをする在学生の父母から、「初めての一人暮らしで不安です」といった心配の声が多数寄せられていたことから、大学と教育後援会・校友会・関大生協などが力を合わせ、2018年度から始まりました。

今年度も約800名の新入生が参加し、同郷・同学部の学生を見つけてはトークに花を咲かせ、新入生同士で交流の輪を広げました。またイベントの途中では応援団の演舞演奏やサプライズゲストとしてサンプラザ中野さんとパッパラ河合さんの登場などがあり、大いに盛り上がりしました。

最後に、参加者全員に食品・お菓子・非常食などの詰め合わせをプレゼントして閉会しました。



リアルな“働く”姿を届けます！ジョブシャドウイング動画を配信中

「ジョブ(仕事)シャドウイング(影になる)」とは、学生が社会人に1日同行し、どのような仕事をしているかを質問・観察することでキャリア観を育むというものです。このジョブシャドウイングに関大生が挑戦。Panasonic Groupの人事・営業・技術職の3名の社員、それぞれの1日に密着し、仕事内容や必要な考え方についての理解を深めました。

その様子を撮影した動画を、『ハタチのトビラ』において配信中。職業体験のような機会を得られ、社会で働くイメージを具体化できる動画となっていますので、ぜひご覧ください。



『ハタチノトビラ』 ジョブシャドウイング動画

『パナソニック 採用人事編』
<https://hatachinotobira.com/contents/210>



『パナソニック 営業社員編』
<https://hatachinotobira.com/contents/212>



『パナソニック 技術職編(理系社員)』
※本動画については、関西大学内専用サイトでの限定公開となります。

関大人 四方山話 ◆ 自堕落な若者、気長に見守る大人 法学部教授 坂本 治也



私が大学生活を過ごしたのは二十世紀末の頃である。大失恋をきっかけに、ずいぶんとやさぐれた4年間だった。勉強そっちのけで、パチンコや合コンで遊び呆ける日々を繰り返した。

そんな自堕落な私を、実直な公務員の父は一度として叱ることはなかった。ある日、徹夜で麻雀帰りの私は、たまたま父と一緒に朝の通勤電車に乗った。満員の車内で人波に押されながら、私は父に「こんな満員電車、毎日、嫌にならへんの？俺はまっぴらやわ」と無邪気に尋ねた。

車内で踏ん張りつつも、笑顔の父の答えは明快だった。「毎日やから、慣れるよ」。十三駅で父の大きな背中を見送りながら、不意に涙が出た。俺もちゃんと生きなあかんよな、と。

いつの時代も若者にはモラトリアムの時間が必要だ。そして、自堕落な若者の緩やかな成長を温かく気長に見守る成熟した大人の存在も絶対に必要だ。私は父のような大きな背中を見せることができているだろうか。関大生に政治学を教えながら、時々そんなことを考える。

編集後記

今月号の特集では海外留学をテーマに取り上げました。私も大学院生の頃に1年間ベトナムに留学したことがあります。日本とは異なる文化に直接触れることができ、貴重な経験になりました。留学中に知り合ってから、10年以上経った今もなお連絡を取り合っている友人・知人もいます。関西大学にはさまざまな留学プログラムがあり、留学期間や留学先もさまざまです。国際部で気軽に相談することもできますので、これまで海外留学を考えてこなかった皆さんも、ぜひ検討してみてください。 (広報委員・文学部准教授 吉川和希)



関西大学通信 “KANDAI STYLE”

発行日:2023年6月1日
発行:関西大学広報委員会
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
電話:06-6368-1121(大代表)

感染拡大予防策を講じた上で、取材や制作を行っています。

今月の表紙

今月号の表紙は、これまで海外留学をされた皆さんの思い出がいっぱい詰まった写真を掲載しました。「今年こそ、海外留学！」と考えている皆さん、この写真のように海外で羽ばたいてください。